最期まで自分らしく過ごしたい
～緩和ケア病棟３周年記念講演会より～

９月１６日、講師としてひまわり在宅クリニック院長の後藤慶次先生をお招きし、講演会を開催しました。当日は県内外、遠くは大分県日田市からも来院され、総勢１６４人の方にご参加いただきました。

そもそも「在宅緩和ケア」とは何でしょうか？それは、後藤先生によれば、病気や障害を抱え、治療が困難になった時、苦痛なく住み慣れた自宅で過ごしたい、願わくば最期までとの希望をかなえる医療・ケアのことです。また、それを行うには様々な職種や機関がチームとなり協力することが不可欠であり、患者の方はもちろんのこと、家族の理解やケアも非常に重要であるということでした。

後藤先生の資料によると、日本国民の半分ほどが元気なときには自宅で最期を過ごすことを望んでいますが、実際には１２％程度（そのうち末期がんは６～７％）の方しか希望が叶えられていないのが現状だそうです。

実際に自宅で看取る際には、患者さんもご家族も多少なり不安を抱えることと思います。そこで後藤先生は、その不安をなくしていくため、日々変化していく状態と予後の見通しをきちんと説明したり、些細なことでも何かあれば訪問したりと、細かなケアをしていくそうです。

そして、患者さんや家族が希望することがあればできるだけかなえてあげられるよう、１人で担わず、訪問看護師やケアマネジャー等たくさんのメンバーの力を活かすことが大切だと教えていただきました。

１時間半の講演後には質疑が飛び交い、多職種の方の在宅緩和ケアへの関心の高さが伺えました。

＜アンケートより＞

＜この講演会の参加動機は何ですか?＞（複数回答可）

・緩和ケアに興味がある　６８名
・職場で勧められた　３６名
・阿蘇地域での緩和ケアの状況を知りたかった　３３名
・近くで研修会があったため　３１名
・現場で対象の患者への関わりで悩んでいるから　２７名
・夜に研修会があり、仕事に支障がないから　２６名
・この先生の講義を聞きたかった　２３名　など

＜講演で特に印象に残った内容は何ですか?＞

・在宅での看取りの現状や大切さがわかった
・患者さんも家族も悔いを残さないことが大切ということ
・多職種でチームを作ってベストを尽くせば、在宅緩和ケアが可能になる
・患者さんや家族に「安心」を提供すること
・実際に在宅緩和ケアを行っているところの少なさと２４時間体制の難しさ
・家族に全てを説明すること　など

＜今後この講演をどう活かそうかと考えますか?＞

・患者さんや家族の日々変化する気持ちに寄り添っていく
・帰りたいという希望があったときにかなえてあげられるようにしたい
・お互いに情報を共有し、密に連携がとれるようにしていく
・チームで支えていく
・阿蘇のネットワークシステムを知り、活用できるようにする
・医療者の考えを押しつけず、本人や家族の生き方を尊重していく　など

そとがき

よりよき人間性を
よりよき環境を
よりよき医療を

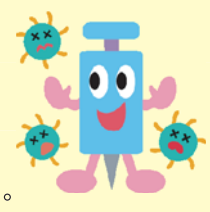
阿蘇温泉病院　０９６７-３２-０８８１
桃花水　０９６７-３２-５２５０
愛・ライフ内牧　０９６７-３２-５５１１
春草苑　０９６７-３２-４０２１
茶寿苑　０９６７-３２-３９５５

インフルエンザ予防接種のお知らせ

予約開始　10月1日（土）

＊電話での予約は行っておりません。必ず受付にて予約を行ってください。
＊中学生以下の接種は小児科にて行うため、**火曜・木曜・土曜**のみの受付となります。
＊定員は**1日30名**までです。定員に達している場合や病院の都合により、ご希望の日に接種できない場合がありますので、予めご了承下さい。

＜負担金について＞
・阿蘇市に住民票がある方は１回につき￥１，０００の負担となります。
　ただし、３歳未満は補助がありませんので、１回あたり￥３，６００となります。
・阿蘇市以外に住民票がある方は基本的に補助がありませんので、￥３，６００の負担となります。
・阿蘇市の補助は、１０月１日から１２月３１日までです。それ以降は全額個人負担となりますのでご注意下さい。
・接種回数は３歳以上６５歳未満は１回～２回、６５歳以上は１回までが阿蘇市の補助の上限回数ですので、ご注意下さい。



「そとがき」とは外輪山を意味する古語です。

坂梨会ホームページアドレス　http://www.asospahp.jp/

第２１５号　　広報 そ と が き　　平成２３年１０月号

１０月の診療予定

小児科	18日(火)	午後より保育園健診のため不在	小児科	22日(土)	休診
	22日(土)	16:30まで受付		26日(水)	休診
耳鼻科	17日(月)	午後休診	23日(日)は当番病院です		
皮膚科	22日(土)	午後休診			

8月18日　朝日新聞掲載より

遅すぎた上海

上海に対して長い事二つの想いが私の心を占拠して、何十年も消える事のなかった現実があった。

昭和１８年、東京で上海からの留学生Ｆさんと出会った。何もかも切り詰めておしゃれなど考えても見なかった私の前に現れたのは、２歳年上とは言えパーマをかけ、チンチラのロングのコートを着た落着いたレディーであった。いろいろ話している中に上海でアメリカ映画「風と共に去りぬ」を日没から１２時迄ノーカットで観たと聞いた時は心底驚いた。

その様な上海から来た彼女は余裕のない殺伐たる日本の日常生活になじめず、淋しそうな表情を見せる事が多かったが、それなりに勉強してお祖母様のいらっしゃる広島の女学校に赴任した。そして彼女は広島の歴史の中の一頁の中の一人として短い人生を終えた。

年齢的にもう旅行はおしまい、落着いて残りの人生を静かに過ごそうとケアハウスに入居して2年…。８５歳の誕生日を迎えたら、やはり上海は近い！とブレーキは利かなかった。勿論ツアーであったが別行動をとらしてもらって、彼女が倖せな日々を過ごしたであろう旧租界地をゆっくり散策し、充分に彼女を偲び、対岸の電視塔や上海一高い森ビル（六本木）も眺め上海の旅は終わった。

誠に遅すぎた上海であったが水の蘇州のおまけつき四泊五日の旅を無事終える事が出来たのは、理解ある施設長の励ましとグループ病院長のアドバイスであった。だから私も無事に帰れます様に、周囲に迷惑をかけません様にと旅の間毎日祈った。

茶寿苑　ｍ・ｎ

上海タワー（高さ467.9m）

●●一言コラム～「滴水窟」ロートレック展～●●

《パリ、美しき時代を生きて》

フランス西南部の古都アルビに大伯爵家の長男として生まれたが、体と足が弱かったため階級社会の中で、障害の苦悩と強者の義務が果たせない苦悩を抱えての生活を余儀なくされた。パリを訪れた彼は娼婦や踊り子に自分たちを重ね、共感し、彼女たちを書き続けた。

（ペンネーム　舟）

この部署　この人

桃花水　受付
本松（もとまつ）　灯（あかり）

今月は桃花水受付の本松灯さんです。本松さんは入社２年目で、笑顔がとても素敵です。

主な業務内容は、電話および来客の応対です。最近では、院内に保管してある絵画の整理や保存も行っています。また、桃花水には透析センターと緩和ケア病棟があるので、そこを利用される患者様やご家族様へ棟内のご案内を行うのも大切な業務の１つです。

仕事での喜びを聞いたところ、些細なことでも患者様の役に立てたり、「ありがとう」と言っていただけることが嬉しいということでした。

一方、大変なことは？との問いに、受付が１人なので、用事等で長く席を外す時が大変だということでした。

今後の意気込みとして、余裕やゆとりを持ってお役に立てる仕事をしていきたいと話してくれました。

☆本松さんは元美術部で、「病院の中の絵はどれも素敵なものばかりなので、ぜひ立ち止まってご覧になっていただきたいです」と話していました。

NO.17

編集後記

１０月になったと同時に、日中でも寒さを感じるようになりました。食欲の秋ということで、旬のものをいただきながら元気に過ごしていきたいですね。（ただし食べすぎには注意です！）　（広報課）

４コマ漫画の担当は野尻史子さんです。